

NEWS

速報「2000人の大合奏」

創立80周年記念

第55回スズキ・メソードグランドコンサート

創立80周年を記念して、2025年10月にオープンしたばかりのTOYOTA ARENA TOKYOに、2,000人による大合奏が響き渡りました。フィナーレの「きらきら星」の合奏では、3,000人の聴衆とともに、新設された会場全体が大きな感動に包まれ、スズキ・メソードのさらなる発展を確信させる記念すべきイベントになりました。



2026年3月27日
TOYOTA ARENA TOKYO

公益社団法人
才能教育研究会

才能教育研究会本部事務局

所在地 〒390-8511 松本市深志 3-10-3
TEL 0263-32-7171
FAX 0263-32-7451
メール talent@suzukimethod.or.jp
WEB https://www.suzukimethod.or.jp

Webサイト



ANNUAL REPORT

2025-2026

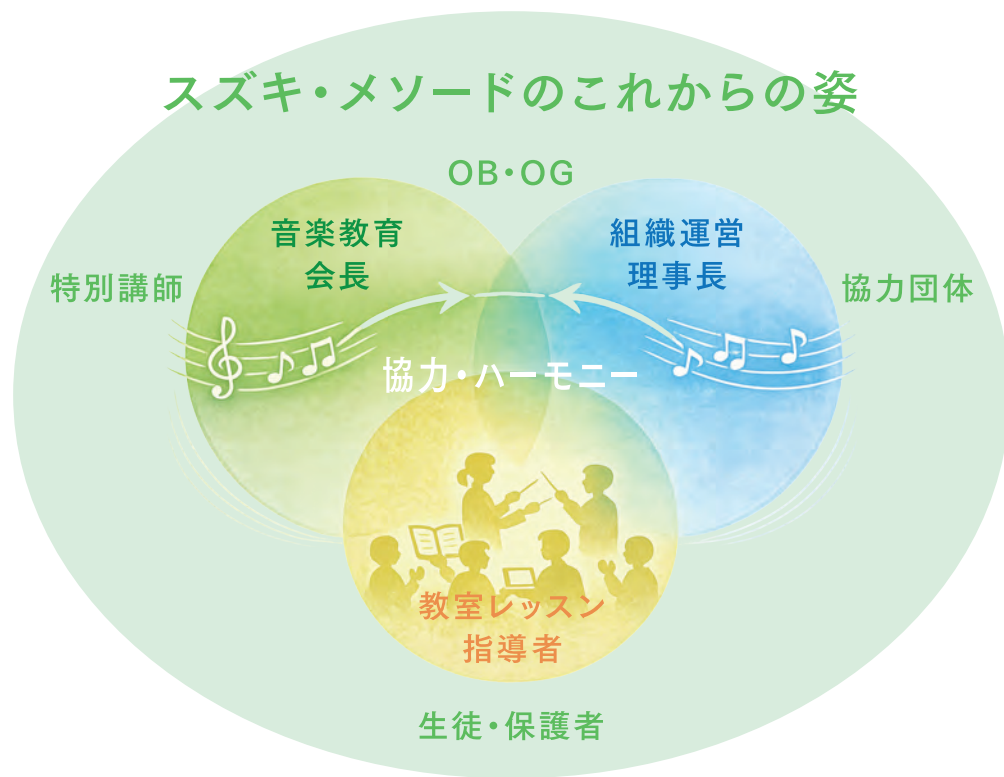


音楽を通して心と能力を育む
Suzuki Method
スズキ・メソード

CONTENTS

スズキ・メソードのこれからの姿	02
理事長・会長 挨拶	03
年間行事表	04
MAIN ACTIVITIES 2025-2026年の主な活動	05
TOPICS スズキ・メソード1世紀 これまでとこれから 年表 理事長・会長 対談	08
2024年度 収入と支出の内訳・ご支援のお願い	14
創始者 鈴木鎮一について・スズキ・メソード 80年の歩み	15
NEWS 「2000人の大集合」 創立80周年記念 第55回スズキ・メソードグランドコンサート	16

スズキ・メソードのこれからの姿



公益社団法人才能教育研究会(スズキ・メソード)は、2024年6月に組織改革を行い、それまでの「会長」による運営体制から、「理事長」と「会長」による運営体制へ移行しました。同年8月には、「理事長」「会長」を兼任していた早野龍五が「理事長」専任となり、「会長」には理事の東誠三が新たに就任しました。

理事長・会長制2年目となる2025年度は、夏期学校・全国指導者研究会・卒業を中心とする主要事業や指導者養成において、東誠三会長のリーダーシップがより明確に発揮されました。一方、早野龍五理事長は、教育実践を支え、将来の発展基盤を強化するための組織運営に専念しました。こうした両責任者の協力と調和により、新たな発展の輪郭がより明確になった一年でした。



1952年生まれ。岐阜県大垣市出身の物理学者（理学博士）、東京大学名誉教授。幼少期に鈴木鎮一に師事。反物質の研究により仁科記念賞、中日文化賞を受賞。2016年より才能教育研究会第5代会長、2024年より理事長。近著に『「科学的」は武器になるー世界を生き抜くための思考法ー』（新潮社）。

理事長挨拶

80年の歩み、100年への一歩

本会(スズキ・メソード)は今年、創立80周年を迎えました。1946年、戦後の焼け跡のなかで鈴木鎮一が始めた小さな運動が、国境を越えて世界へ広がり、今日まで途切れることなく続いてきたことは、決して当たり前ではありません。歴代の指導者と会員の皆様、そして子どもたちを支えてこられたご家族のお力添えの賜物と、心より御礼申し上げます。

長く続いてきたものには、続いてきただけの理由があります。「どの子も育つ」という理念の普遍性、時代に合わせて自らを変えていく柔軟さ、そして次の世代へ着実に引き継ぐ努力。この三つが揃って、はじめて歩みは続きます。

本年の報告書では、理事長・会長の対談を通じて80年の歩みを振り返り、創立100周年への展望をお伝えします。80年を100年へ、そしてその先へ。確かな道筋を次の世代へつないでまいります。引き続きスズキ・メソードへのご支援を、よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人才能教育研究会 理事長

早野龍五 Ryugo Hayano

会長挨拶

日々の営みが積み上げる未来の姿

今年、本会の創立80年を、多くの方々と共に迎えることができました。関係の皆様による一つ一つの行いと思いが結集してこの日が迎えられたことに、感謝の念を新たにしております。

時代の変革はますますそのスピードを速め、わずか5年前のライフスタイルでさえ、古さを感じることが稀ではありません。そうした中で、人間の感性のはたらき、そしてそこを通して得られる感動、獲得される能力の確かさ、心の純粋さは普遍のものです。

日々生徒さん、そして保護者の方々と真摯に向き合い、心を通じさせながら、一緒に能力を高めていくことが私たちの本分です。私たちは、これからもそのプロセスを多くの人々と分かち合うために邁進して参ります。今後とも、スズキ・メソードへのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人才能教育研究会 会長

東 誠三 Seizo Azuma



(C) Ariga Terasawa

幼少より、スズキ・メソードの片岡ハルコ先生の下でピアノの基礎教育を受けた後、東京音楽大学付属高校から東京音楽大学へ。1983年日本音楽コンクール優勝後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に留学し、J.ルヴィエ、J.C.ベヌティエ氏らに師事。ポツォーリ、モントリオール、カサドシュなど、数々の国際コンクールに入賞。主要オーケストラへの客演、リサイタル活動の他、室内楽にも強い意欲を示し、東京フィル・コンサートマスター三浦章広(Vn)、N響首席チェリスト藤森亮一(Vc)と結成した「ボアヴェール・トリオ」での活動を始め、多くのトップソリストたちと共演。現在、東京藝術大学教授、東京音楽大学特任教授、日本音楽コンクール他、国内外の主要コンクールの審査員を務めている。日本ショパン協会理事。2000年より国際スズキ・メソード音楽院教授、2018年よりスズキ・メソード特別講師及び特別講師長。2024年8月より公益社団法人才能教育研究会会長。

年間行事表 2025



2025.4

フルート科研究会(高橋利夫先生) 4/2



チェロ科創設70周年 第26回チェロ全国大会 4/6

スズキ・メソード仙台支部創立70周年記念演奏会 4/13

大阪関西万博で演奏 4/27

スズキチルドレンピアノコンサート 5/6



東海地区グランドコンサート 5/6

全国指導者研究会 6/2-5

夏期学校 7/31-8/5

第14期定時総会 8/19



第2回チェロキャンプ
(札幌) 9/14-15



じしんをしるたび
「星をつなぐコンサート」
(東日本大震災復興支援)
9/14-15

チェロ科研究会(山本裕康先生) 12/1-2
ヴィオラ研究会(小玉もな先生) 12/17

第61回甲信地区大会 10/19

アークヒルズ演奏&楽器体験会 10/11-12

2026.1



関東地区新年指導者研究会 1/12



ピアノ科卒業式 3/20,31,4/3

才能教育研究会創立80周年記念 第55回グランドコンサート 3/27



竹澤恭子&スズキ・メソード
ジョイントコンサート(大府) 2/1



2026

MAIN ACTIVITIES

2025-2026年の主な活動

全国指導者研究会



開催期間: 2025年6月2日(月) - 6月5日(木)

開催地及び開催方法: まつもと市民芸術館 / 才能教育会館 / スズキ・メソード研究所
現地開催及びオンライン配信(ハイブリッド開催)

参加者数: 現地参加268名 オンライン参加187名

東誠三会長の精力的なリーダーシップのもと主体的な学びの4日間

例年どおり6月第1週に開催され、東誠三会長と関係者の周到な準備、ならびに特別講師・外部講師による精力的な指導により、充実した学びの場となりました。「将棋と音楽が出会う場所」では、佐藤康光九段と東会長の対話が指導者の探究心を刺激しました。また、東京藝術大学の犬角欣矢教授の研究からは、レコード録音という100年前の先端技術を音楽教育普及に活かした鈴木鎮一の先見性を学びました。

さらに、ヴァイオリニスト加藤知子氏や特別講師によるレッスン、研究発表、講義が多彩に展開され、ハラスメント研修も対話形式による実践的な内容となりました。加えて、小グループ討議や教本研究発表など、主体的な相互研修も行われ、最終セッションでは次世代への継承が強く意識される内容となりました。配信により、現地参加が難しい指導者にも全内容が共有されました。



2025-2026年の主な活動

夏期学校



開催期間：2025年7月31日（木）-8月5日（火）

開催地及び開催方法：まつもと市民芸術館 / あがたの森文化会館 /
（現地開催のみ） 松本市勤労者福祉センター / 才能教育会館 / 深志神社 / スズキ・メソッド研究所 / キッセイ文化ホール

参加者数：1573名（生徒589名 / 指導者・同伴者等984名）



6年ぶりに海外生徒の参加が復活

世界に普及しているスズキ・メソッドにおいて、夏期学校は「インバウンド」という言葉が一般化する以前から、国際色豊かな交流の場として発展してきました。2019年を最後に、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や規模縮小、定員制での再開が続き、海外参加者の受け入れが困難な状況が続きました。コロナ禍以降、「海外参加の受付はいつ再開されるか」との問い合わせが毎年寄せられていました。2025年は6年ぶりに海外参加者の受け入れを再開し、国際色豊かな夏期学校となり、本事業はコロナ禍からの完全な復活を果たしました。

なお、まつもと市民芸術館大ホールの改修工事に伴い、開会式イベントは中止し、初日に東誠三会長が各教室を巡回して挨拶を行いました。また、生徒および特別講師によるコンサートは郊外のキッセイ文化ホールにて実施するなど、これらの制約下においても、実行委員および関係者の工夫により、充実した夏期学校を実現することができました。例年実施している特別講師によるコンサートにも、多くの市民が来場していただくことができました。

卒業制度



実施期間：音源提出	2025年10月1日-11月30日
：演奏検定評価	2025年12月1日-2026年2月28日
：卒業式（発表演奏）	2026年3月20日・30日・4月3日（全国4会場および演奏会抜粋版の配信）
計定数	：ヴァイオリン科（ヴィオラ含） 1683本 / チェロ科 190本 / フルート科 27本 / ピアノ科 927本

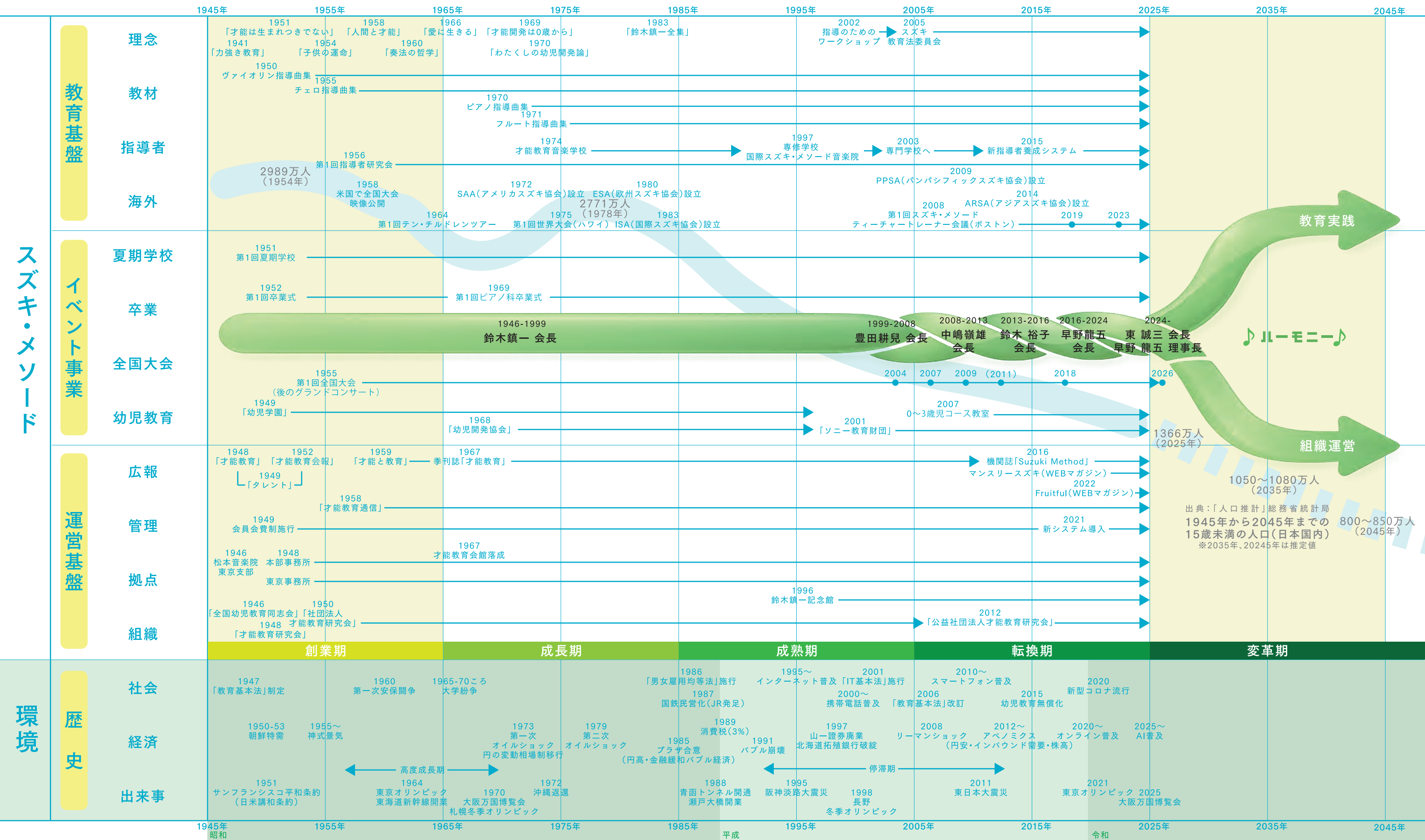
難関課題曲の提出本数の増加と創意工夫による卒業式の実施

スズキ・メソッドにおける生徒の着実な成長を支える根幹となっている卒業制度は、2025年度も全国の指導者による丁寧な指導と、生徒の真摯な取り組みにより実施されました。

2025年度の主な成果として、才能教育課程および研究科ABC（ピアノ科はAB）という難度の高い課程（弦楽器科は4課程、ピアノ科は3課程）の提出本数が、すべての楽器科において増加した点が挙げられます。また、生徒数の減少傾向が続く中、ヴァイオリン科において提出数が前年比で増加したことも特筆すべき変化でした。これらの成果は、各生徒が時間を要しても最終課程まで到達しようとする傾向が強まっていることを示し、指導成果の一端として誇れるものです。

さらに、毎年実施しているピアノ科の卒業式および演奏会での協奏曲演奏については、従来のオーケストラ伴奏版をもとに指導者が弦楽合奏用に編曲し実施しました。費用を抑制しつつ生徒の演奏意欲を高める取り組みは、指導者のたゆまぬ創意工夫の成果であり、スズキ・メソッドの大切な財産となりました。



スズキ・メソッド1世紀
これまでとこれから100年スパンでこれまでの80年と
これからの20年の境界線に立つ。

創立80周年を迎えて

公益社団法人才能教育研究会

最初の 20 年

——この年次報告書は創立 80 周年という節目に発刊します。そこで今日は「創立 100 周年までの 20 年」を見据えて大いに語っていただけますでしょうか。

早：こうして年表で振り返ると、創立から 20 年ほどで、現在のスズキ・メソードの骨格はほぼ出来上がっています。最初の 10 年は国内の足固め、次の 10 年で世界へ広がる基礎固めが進んだ、と整理できます。

東：そうですね。創立 5 年目に夏期学校（1951）、6 年目に卒業式（1952）、9 年目に全国大会（1955）（*1）と矢継ぎ早に主要事業をスタートさせています。卒業検定制度も 5 年目には始まっていたのですね。そして、12 年目（1958）に全国大会のフィルムが米国で紹介されると、「百聞は一見に如かず」と多くの研究者が来日し、それが 18 年目の第 1 回テン・チルドレンツアー（*2）につながりました。

早：コロナ禍を経て、私たちの活動もこの数年で大きく変わりました。ただ、ゼロから立ち上げた創業期のスタートダッシュを振り返ると、その驚異的な行動力には今も頭が下がります。私自身、1964 年 3 月の第 1 回テン・チルドレンツアー（*2）に参加させていただきましたが、まさに国内外を駆け巡るような勢いでした。これからの 20 年は、創立後の 20 年への挑戦。いわば過去の自分たちとの競争だと考えています。

東：80 年という歴史を、創業期の成功からその後の成長と苦労を改めて振り返ることで、今後の 20 年に向けた我々の立ち位置や課題も、より明確になるのではないかと思います。

* 1 全国大会：現在はグランドコンサートと改称

* 2 テン・チルドレンツアー：スズキ・メソードを米国で紹介し広めたいという米国篤志家の招待で 1964 年にスタートしたスズキ・メソード 10 名の生徒による海外公演ツアー。1994 年まで世界 20 ヶ国、延べ 384 都市で 483 公演を行った。



内部（組織・教育）

——80 年の歴史は節目のイベントや出来事を軸に語られる事が多いですが、会長と理事長という分担に沿って「教育活動」と「組織運営」の両面で振り返っていただけますでしょうか？

東：私たちは 80 年の歴史そのものに目を向けがちですが、本当に学ぶべきことは創業期の精神だと思います。鈴木鎮一先生は、子どもたちのためにより良い教育を求め常識や旧習を排し、新しいことに挑戦し続けました。その姿勢こそが受け継ぐべき財産です。松本市本郷小学校での＜落伍者をつくらない＞実験教室は、理解者の上条校長先生の退任で消えてしまいましたが、その内容もまた「教育の革命」と

呼べるほど先進的なものだったと思います。

早：鈴木鎮一先生の素晴らしさは、理念や精神を説くだけでなく、仲間づくり、組織づくりを進め、それを継続可能な事業として確立したこと、つまり「経営」として成功させたことだと思います。創立 2 年目（1948）の「才能教育」の発刊、3 年目（1949）には現在も続く指導者・保護者の会員・会費制度をスタートさせ、さらに 2 年目（1948）には松本に本部と首都圏に東京事務所を立ち上げ、4 年目（1950）には社団法人としての認可を受けています。

東：「教育は 0 歳からが大切」という主張の実践現場となった松本・本部の「幼児学園」は 3 年目（1949）

にスタートしています。また、ヴァイオリンの教本整備にも精力的に取り組み、出版社や賛同者の協力も得て創立 30 年目頃までに、ヴァイオリンだけでなく、チェロ・フルート・ピアノの教本も整備され、現在では世界のスズキ・メソードの指導者の手によって常に改良の試みが続いています。

早：これらの初期の土台の上に発展できたのは、創始者である鈴木鎮一先生が長く健在で求心力を持って活動できたこと、そして 50 年目以降も豊田耕児会長、中嶋嶺雄会長、鈴木裕子会長が、創始者のチャレンジ精神を忘れず、それぞれの持ち味を発揮しながら困難な状況にも立ち向かい、尽力されたからだと思います。鈴木鎮一先生から影響を受けた多くの指導者・支援者が、理念と精神を大切にしながら代々の会長のもとに団結してきたことも大きな要因であると思います。

外部（社会・協力者）

——スズキ・メソードでは「人は環境の子なり」と環境の重要性が唱えられますが、スズキ・メソードの環境はどうだったのでしょうか？

東：大変面白い視点ですね。私は成長期を松本で過ごし、そこでスズキ・メソードに出会いましたが、やはり「松本」は大きなポイントだったと思います。1946 年当時、木曾に疎開していた鈴木鎮一先生を説得して松本音楽院を開校したのは、教育熱心な松本の有力市民たちでした。その頃の松本では 20 代のいわさきちひろや高校生の草間彌生が既に絵画の創作活動を開始していました。やはり、その土地や人々がもつ「風土」の力でしょうか。

早：戦後復興期の胎動という点では、ソニーもスズキ・メソードと同じ 1946 年の創業で、ともに焼け跡の中から小さく始まっています。創業者の強い起業家精神で、最初の 10 年 20 年のうちに次々と新しいものを世に送り出し、のちの世界的な発展の足がかり



をつかみました。その出発点の勢いは、私たちの創業期とよく似ていますね。

東：音楽の世界では、滝廉太郎、山田耕筰から近衛秀麿、斎藤秀雄、鈴木鎮一先生まで、戦前の海外留学は才能と支援者に恵まれた一握りの逸材に与えられた特別な出来事でした。終戦とともに民主化した社会環境のもとで、戦前に海外で学んだ優れた音楽家たちが教育に心血を注ぎ、その成果が日本各地に広がっていきました。更には日本の経済的发展が追い風となり、多くの人材が海外で学ぶ機会をつかみ、その成果が日本の音楽教育現場に還流するという流れも生まれました。スズキ・メソードはまさにこのような歴史の象徴的な存在であり、自分自身もこの歴史の流れの中で成長できたと強く実感しています。

早：高度成長のあとの日本は、バブル崩壊や「失われた30年」とも言われる停滞を経験してきました。その間、戦後を代表する企業の多くも時代の波に大きく揺さぶられ、なかには今まさに厳しい局面にある会社もあります。浮き沈みの中で何が存続を分けるのか。この問いはスズキ・メソードにとっても他人事ではありません。

創立100周年に向けたこれからの20年
——それでは、これまでの気づきをもとに創立100周年へ向けたメッセージをお願いします。

早：「長く続いてきたものは、これからも続く可能性が高い」という経験則があり、リンディ効果と呼ばれます。ただ、放っておいて成り立つものではありません。もともとの理念やコンテンツに魅力があること、時代の変化に合わせて自らを変えていく柔軟さ、そして次の世代へきちんと引き継ぐ努力。この三つが揃って初めて「長く続く」が実現すると思います。先ほどのソニーが、創業の精神を保ちながら事業の形を大胆に変えて生き残ったのは、まさにこの柔軟さの一例でしょう。スズキ・メソードも、理念は守りつつ、形は時代に合わせて変えていく。その両立がいま問われていると思います。

東：ソニーの製品は「電気製品ならソニー」という熱狂的なファンがいましたね。映画や金融・保険の

ようなモノでない商品でも「ソニー」というブランドに特別な感情を持つ人々がいます。「何か新しいものを出してくれる」「持っているだけで楽しい」というワクワク感でファンが共鳴しあう姿が見えてきます。初期のスズキ・メソードもおそらくこのような「共鳴」で大きくなったのですが、これからの新しい環境の中でも再びこの「ワクワク」「共鳴」を創り発展したいですね。

早：その「自らを変える」ことの 하나가、組織の仕組みづくりでした。これまで会長は、音楽と教育の象徴であると同時に、財務・法務・人事すべての責任を一身に背負う立場で、これから音楽家をお迎えするうえで、お一人で担っていただくのは現実的ではないと感じていました。そこで議論を重ね、「会長と理事長を分ける」体制へと改め、2024年8月にスタートさせることができました。東先生に懐深く受け止めていただいたおかげで、役割の仕分けも自然に定着しています。次の20年、さらに100周年へ向けて組織として歩むための土台が、これで整ったと考えています。

東：「音楽は人種・言語・宗教・立場の違いを乗り越えてコミュニケーションできる最強のツールである」と看破された音楽家の方がいらっしゃいました。まさに、我々が人間の成長の場として携わっている分野が「音楽」です。すべての生徒さんがこの「音楽」の素晴らしさを実感できるようになることを目指し

て、私はスズキ・メソードの指導者の皆さんと共に自己研鑽を積み重ねていこうと思っています。

早：運営面では、会員数(生徒数・指導者数)という「数」の課題が、そのまま財政の課題に直結しがちです。ただ私は、これも「ファンづくり」、堅く申せば「支援層を厚くする」という課題に置き換えられると思っています。発信する言葉やメッセージの一つひとつまで丁寧な配慮が求められますが、鍵はOB・OGの皆さんとの連帯感ではないでしょうか。創立80年は単なる沿革ではなく、伝統校と同じく数多くの卒業生が積み重なっている、ということです。昔の卒業生に振り向いてもらい、今の生徒さんにいつの日か「スズキ・メソードで育ってよかった」と感謝してもらえる。そのような運営を目指して、創立100周年の節目へ一歩一歩進んでいきたいと思います。

——創立80年の節目、理事長・会長、それぞれのお立場からのメッセージをありがとうございました。



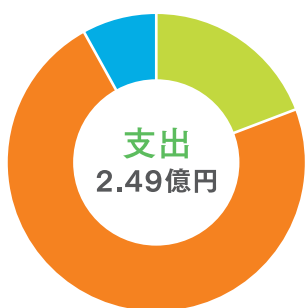
2024年度 収入と支出の内訳

※本会は5月末決算の為、財務報告は2025年5月末締め決算報告です。

- 会費収入(55.5%)
- 事業収入(33.0%)
- 補助金・助成金(1.8%)
- 寄付(1.4%)
- その他(8.3%)



- 共通運営費用(19.5%)
- 事業活動費用(71.8%)
- 維持費用及び積立(8.7%)



スズキ・メソードでは、会員（主に指導者および生徒保護者）からの会費が、収入全体の6割弱を占めています。事業収入には、夏期学校・全国指導者研究会・卒業検定の参加費および教室賃貸料が含まれます。その他の収入は、積立金の取り崩しによるものです。会員数の減少により、総収入額は2023年度（令和5年度）と比較して微減となっています。

スズキ・メソードの支出は、共通運営費用が全体の2割、事業活動費用が全体の7割を占めています。両費用については、収入減少への対応として、人件費の抑制や、オンライン活用による移動費用の削減などの対策を実施しました。また、基本財産の維持や将来の事業活動に備えるための積立てについては、例年どおり実施しました。



貸借対照表



正味財産増減計算書

ご支援のお願い（賛助会員のご案内）



一般会員・個人

本会の目的および事業に賛同し支援をする個人

年額会費 5,000円

お支払い方法

入会手続きの際にクレジットカードを登録していただけます。会費は年1回年額を請求させていただきます。



協力会員・法人

本会の目的および事業に賛同し支援をする法人

年額会費 30,000円（一口）

お支払い方法

入会手続き後、下記口座まで銀行振り込みでお支払いください。※手数料はご負担願います。

支店名 りそな銀行松本支店
当座預金 0100439
名義 公益社団法人才能教育研究会

現在の法人賛助会員様

スズキ・メソード幼児教育研究会 / 伊那食品工業株式会社

賛助会員の3つの特典

- 1 会報・機関誌を送付
- 2 本会主催事業への案内状を送付
- 3 会報・機関誌・WEBに法人名を掲載



理事長
早野龍五

皆様のお力添えに感謝いたします。

子どもたちが楽器を通して真剣に打ち込む姿と、できたときの喜びは、大きな人間的成長を促す力となります。私たちスズキ・メソードは、「どの子も育つ」ことを大切に、そして、時代が移っても変わることなく、さらに拡充、発展させたいと願っております。

詳しくは、スズキ・メソードのWEBサイトにて「賛助会員入会のご案内」をご覧ください。



創始者 鈴木鎮一について



スズキ・メソード創始者
鈴木 鎮一

1898年10月17日名古屋に生まれる。市立名古屋商業学校卒業後、1920年に上京、徳川義親侯爵家に寄宿してヴァイオリンを安藤幸（幸田露伴の妹）に師事する。翌年、徳川侯爵の世界一周旅行に同行してベルリンに留学。カール・クリングラーに学び、また相対性理論で有名なアルベルト・アインシュタインからも薫陶を受ける。1928年結婚し帰国。帰国後3人の弟たちと「鈴木クワルテット」を結成、活発な演奏活動始める。1931年ロシアのヴァイオリニスト、アレキサンダー・モギレフスキーらとともに帝国音楽学校を東京に設立し、教授に就任、その後校長となる。1937年頃から江藤俊哉、豊田耕児、小林武史・健次兄弟、鈴木秀太郎、有松洋子らを指導する。1943年長野県木曽福島に疎開。1946年長野県松本市下横田に松本音楽院を開設し、院長に就任。同年才能教育研究会の前身である「全国幼児教育同志会」を結成、1948年に「才能教育研究会」と改称し生涯にわたり会長として同会の発展に尽力した。1996年松本市に鈴木鎮一記念館が開館。1998年1月26日永眠。享年99歳。米ニューイングランド大学ほか世界の9つの大学より名誉音楽博士号・名誉博士号を授与された。英サンデータイムス紙の「20世紀をつくった1000人」の1人。勲三等瑞宝章。松本市名誉市民。

スズキ・メソード 80年の歩み

1940年代

1946年（昭和21年） 9月、松本市下横田に松本音楽院創設。鈴木鎮一院長就任。才能教育研究会の前身「全国幼児教育同志会」を結成。

1950年代

1950年（昭和25年） 10月、「社団法人才能教育研究会」が設立認可。

1951年（昭和26年） 長野県霧ヶ峰高原で第1回夏期学校開催。生徒109名と指導者11名が参加。

1955年（昭和30年） 3月、東京体育館での第1回全国大会（現グランドコンサート）に1200名の生徒が参加。

1956年（昭和31年） 第1回全国指導者研究会（松本市郊外）に41名が出席。

1960年代

1964年（昭和39年） 3月、第1回海外演奏旅行。10人の生徒（テン・チルドレン）がアメリカ各地で演奏。

1967年（昭和42年） 8月、松本市深志に才能教育会館落成。アメリカ弦楽指導者協会（ASTA）のメンバー68名が来日し、夏期学校を視察。

1970年代

1970年（昭和45年） 大阪万博の国連デーに1000名の生徒たちが、お祭り広場で祝賀演奏。鈴木会長 勲三等瑞宝章。

1975年（昭和50年） 6月、第1回世界大会をハワイで開催。日本、アメリカ、オーストラリアなどから指導者・生徒・父母870名余が参加。

1980年代

1983年（昭和58年） 7月、第6回世界大会を初めて日本（東京・松本）で開催。世界22の国と地域から1500名が参加。

1990年代

1998年（平成10年） 長野冬季オリンピック記念コンサート「平和への演奏、世界へ響け1000人の子どもたち」に、20数カ国の生徒が出演。（長野市）

1999年（平成11年） 豊田耕児会長就任。

2000年代

2002年（平成14年） 信州大学と研究協力協定を結ぶ。

2004年（平成16年） 第50回記念グランドコンサート（日本武道館）と国際シンポジウムを開催。

2007年（平成19年） スズキ・メソード 0～3歳児コースがスタート。

2008年（平成20年） 中嶋嶺雄会長就任。

2010年代

2012年（平成24年） 10月、「公益社団法人才能教育研究会」に移行。

2013年（平成25年） 3月、第16回世界大会を松本で開催。日本で4回目の大会に世界36の国と地域から5400名が参加。鈴木裕子会長就任。

2017年（平成29年） 早野龍五会長就任。東京大学と共同研究契約を結ぶ。

2019年（令和元年） 11月、ローマ教皇フランシスコ来日時にスズキ・メソードの生徒、指導者が御前演奏。

2020年代

2021年（令和3年） 全国指導者研究会、夏期学校を初めて全プログラムオンライン配信で実施。夏期学校が第70回を迎える。

2023年（令和5年） 4月、軽井沢のG7外相サミットで、スズキ・メソードの生徒が歓迎演奏。

2024年（令和6年） 早野龍五理事長就任。東誠三会長就任。

2026年（令和8年） 3月、創立80周年記念第55回グランドコンサート（TOYOTA ARENA TOKYO）を開催。